

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立坪生小学校
最終更新日		2023年(令和5年)2月28日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○コロナ禍により、一堂に会して協議を行うことはできなかったが、年間3回、各校の取組を紙面で報告した。</p> <p>○3回目の紙面協議会では、評価委員全員に今年度の各校の取組について評価をいただいた。</p> <p>○各校の取組を高く評価いただけたものが多かったが、「地域との連携、情報発信」については課題があるとのこと指摘をいただいた。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○「授業が面白い」「考えを表すことができる」等の主体的な学びに関する児童生徒の肯定的評価が8割以上であり、主体的に学ぶ意欲が高まっている。</p> <p>○昨年度も、新型コロナ感染拡大防止のため、児童生徒が対面して交流する機会をもつことができなかった。</p> <p>○委員会や学級等で、児童生徒が自ら健康づくりや体力づくりに楽しく取り組めるよう考え、計画・実践している。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>○課題発見解決能力 ○コミュニケーション能力(自己効力感) ○チャレンジ精神 ○思いやりと感謝の心(地域貢献)</p> <p>○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす。 ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する。 ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる。 ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる。</p> <p>○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実</p>
---	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「授業時数特例校」、「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校」として、特色を生かした特別の教育課程を編成・実施するとともに、個別の学習支援の実践と取組を発信する</p>					
<p>学校教育目標</p> <p>学び合い 学び続ける</p>					
<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学びに関する意識調査肯定的回答⇒80.9% ○「学校が楽しい。」肯定的回答⇒90.0% ○「体を動かすことが楽しい。」肯定的回答⇒90.8% <p>・数値を平均化すればおおむね目標を達成しているが、個々の児童に目を向けると課題が残る。</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校に対する安心感」肯定的回答⇒90.3% <p>・保護者や地域のニーズに合った情報を、タイムリーに発信することに課題がある。</p> <p><職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○勤務時間外在校時間月45時間以上を超えない職員⇒100% <p>・時間的な目標は達成できているが、実感をともなった業務改善につなげていない。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>課題発見解決能力</p>	<p>チャレンジ精神</p>	<p>コミュニケーション能力(自己効力感)</p>	<p>思いやりと感謝の心(地域貢献)</p>
	高	新たな課題やより良い解決方法を見つけ、実践する。	将来の夢や目標に向けて、自分がやるべきことを考え、挑戦する。	人の考えを受け入れ、自分のことや考え、気持ちを相手に理解してもらえるように伝え合う。	人や地域のためになることを考え、行動する。
めざす子ども像	中	課題解決に向けて、試行錯誤する。	目標に向けて、自分がやるべきことを考え、挑戦する。	自分のことや考え、気持ちを相手に理解してもらえるように伝え合う。	人や地域のためになることを考える。
	低	課題を見つたり、解決しようとしたりする。	目標をもったり、やってみたいことを見つたりする。	自分のことや考え、気持ちを伝え合う。	人や地域に感謝の気持ちをもつ。
	テーマ	一人一人の多様な学びを促す授業づくり			
研究	内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・つぶやきや疑問から探究が始まる働きかけ ・概念を広く学ぶ機会の創出 ・知識を使う場の意図的な設定 			
めざす授業の姿	児童一人一人が学びに向かう授業				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期 経営目標	重 点	分 類	短期 経営目標	目標達成に向けた 取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	評価 達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の 達成状況	評価 達成 評価	総合 評価	改善方策		
1	主体的な学びの創造	★	新規	一人一人の多様な学びを促す授業をつくる。	①児童一人一人のつぶやきや疑問を把握し、探究へのファシリテーションを行う。 ②様々な内容にふれたり、今までの学びを活用したりする場面を意図的に設定する。	児童アンケート 「自分で目標や方法を選びながら学んでいる」 年度当初アンケート(4段階)からの伸び80%以上 ※肯定評価の維持は伸びと捉える。	①児童のつぶやきから、柔軟に学習活動を展開するために、つぶやきやつまずきを想定しながら教材研究を行った。 ②児童が、自分で学習方法や内容を選びながら、今までの学びを活用する場面を意図的に設定した。 ⇒1学期末児童アンケート 「自分で目標や方法を選びながら学んでいる」 伸びた児童 76% 肯定的評価児童 84%	3	3	①教師が「なぜ?」と問いかけることを意識したり、児童が「だって…」と言いたくなるような問いを設定したりする。 ②児童と学習計画を立て、自分で計画を修正・変更できるような場を設定する。	①学年会や放課後の時間を活用して、個人だけでなく、学年全体で、つぶやきやつまずきを想像しながら教材研究を行った。 ②学びの範囲を制限せずに、児童が興味をもった内容にふれるようにした。また、学習計画を友達と交流しながら、修正・変更を加え、学びを進めた。 ⇒2学期末児童アンケート 「自分で目標や方法を選びながら学んでいる」 伸びた児童 76% 肯定的評価児童 85%	4	3	4	【評価指標に対する達成度95%】 ①異学年の職員とも授業について交流する時間を設定し、学びづくりについての視野を広げる。 ②授業と家庭学習のつながりを意識しながら学びづくりを行い、家庭でも学びを活用したり深めたりできるようにする。
2	自己肯定感・自己有用感の向上		見直し	学校に楽しく登校できる児童を増やす。	①個別面談等を活用し、児童一人一人に寄り添う指導を行う。 ②児童同士の相互評価の場を、柔軟に設定する。	児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」 年度当初アンケート(4段階)からの伸び85%以上 ※肯定評価の維持は伸びと捉える。	①設定していた個別面談に加え、必要に応じて面談を行い、児童の困り感や悩みを把握し、指導に生かした。 ②授業、行事、学級活動において、相互評価の場が少なく、互いの良さを認め合う場を十分設定できなかった。 ⇒1学期末児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」 伸びた児童 79% 肯定的評価児童 86%	3	3	①引き続き、定期的な面談に加え、必要に応じて個別面談を行い、一人一人の思いや状況に寄り添った指導を行う。 ②縦割り班活動や行事、学級活動等、積極的生徒指導ができる場を意図的に設定し、児童同士の相互評価を活発に行えるようにする。	①定期的な面談に加え、児童の様子や保護者からの情報をもとに個別面談を行い、一人一人の思いや状況に寄り添った指導を行った。 ②縦割り班掃除やウォークラリー(児童会行事)、児童会での月目標等、積極的生徒指導ができる場を設定し、児童同士の相互評価を活発に行えるようにした。 ⇒2学期末児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」 伸びた児童 79% 肯定的評価児童 87%	4	3	4	【評価指標に対する達成度93%】 ①アンケート(児童・保護者)や面談を活用した取組を継続しながら、一人一人の状況を丁寧に把握し、個に応じた指導を行う。 ②今までの取組に加え、学級ごとの取組を定期的に交流し、積極的生徒指導をさらに推進する。
2	体力・健康に対する意識の向上		見直し	体を動かすことが楽しいと思える児童を増やす。	①体を動かすことの面白さを感じられる多様な場を設定する。 ②委員会などと連携し、誰もが楽しみながら運動に触れる機会を設定する。	児童アンケート 「体を動かすことが楽しい」 年度当初アンケート(4段階)からの伸び90%以上 ※肯定評価の維持は伸びと捉える。	①導入や各領域の運動において、遊びの要素がある活動を取り入れた。 ②授業において、自分の目標や学び方に合った運動の仕方を、選んだり決めたりできるようにした。委員会との連携は、計画段階である。 ⇒1学期末児童アンケート	3	3	①毎月の運営部会の中で、各領域で取り組める遊びの要素を取り入れた運動を交流し、学年の実態に応じて取り組む。 ②委員会や係活動などを通して、子どもたちと一緒に、	①遊びの要素を取り入れた運動を、学年を越えて交流したことで、発達の流れを考えながら、取り組むことができた。また、安全な活動について情報を共有することができた。 ②体育委員会のリズムなわとびを中心に、子どもたちが考えた活動を実施すること	3	3	4	【評価指標に対する達成度91%】 ①授業実践や指導の工夫、それにとりまなう児童の活動の様子等を職員間で定期的に共有し、体力・健康に対する指導力を向上する。

					「体を動かすことが楽しい」 伸びた児童 81% 肯定的評価児童 87%			どのような活動ができるか考え、実施する。	ができた。 ⇒2学期末児童アンケート 「体を動かすことが楽しい」 伸びた児童 82% 肯定的評価児童 90%				
2	安全で安心いじめのない学校の実現	★ 見直し	児童と保護者が安心・安全な学校生活を実感できるようにする。	①職員一人一人が学校の取組を自身の言葉で語れるようにする。 ②保護者や地域の多様なニーズを把握し、様々な方法で、タイムリーに情報発信をする。	保護者アンケート【学校に対する安心感】 肯定的評価 93%以上	3	3	①引き続き、対話を中心とした研修の場を設定し、様々な取組の目的や目指すべき方向を職員で共有する。 ②授業や行事、学校での取組の目的について、各種便りやホームページ、動画配信を用いて発信する。	①学びの評価や保護者との共有の仕方について、職員同士の対話を中心とした研修を設定し、日々の授業や三者懇談に生かした。 ②日々の授業に加え、学習発表会や児童会行事、職員研修の様子などを、便りやホームページで発信した。 ⇒2学期末保護者アンケート【学校に対する安心感】 肯定的評価 90%	4	3	4	【評価指標に対する達成度 97%】 ①職員一人一人の多様なアイデアを出し合う場を確保し、学校運営の参画意識をさらに高める。 ②学びの様子に加え、研修や各部の取組等についても情報発信を行う。
			教職員が個性を発揮しながら、やりがいをもって勤務できるようにする。	①「子ども主体の学び」と「働き方改革」の視点で、全職員で業務改善策を生み出す。 ②日々の授業や児童の成長について対話をする時間を設定する。	勤務時間外在校時間月45時間以上を超えない職員 100% 職員意識調査「仕事にやりがいを感じている」 肯定的評価 95%以上	3	3	①「児童の学び」を中心に据え、本当に必要なものとそうでないものについて、その都度精選を行った。 ②毎週学年会を設定し、学びの中での児童の様子や、学びづくりのアイデアを交流した。 ⇒勤務時間外在校時間月45時間以上を超えない職員 94% ⇒職員意識調査(福山100N教育アンケート) 「仕事にやりがいを感じている」 肯定的評価 88%	①業務改善について全職員で熟議を行い、更なる改善策を生み出す。 ②引き続き、計画的に会議等を設定し、学年会の時間を確保する。	①柔軟なカリキュラムの運営(授業時数特例校)や、学び喜びサポート校事業等、今年度の中心的な取組について、振り返りを行った。 ②計画的に学年会等を運営できるように、年度末に向けての業務計画表を作成し、職員間で共有した。 ⇒勤務時間外在校時間月45時間以上を超えない職員 94% ⇒職員意識調査(1月末職員アンケート) 「仕事にやりがいを感じている」 肯定的評価 95%	4	3	4

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。